

学校コード F113310102877

注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 研究科の設置

注1

認可

注2

文京学院大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)

## 【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 文京学院  
令和4年5月1日現在

### 作成担当者

担当部局（課）名 キャリア・社会教育センター

職名・氏名 センター長 <sup>チョウ ヨシムラ イクオ</sup> 吉村 郁夫

電話番号 03-5684-4901

(夜間) 03-5684-4901

e-mail h-bgs@bgu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

( ) 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、

当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

# 目次

## 看護学研究科

＜看護学専攻(修士課程)＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	12
6. 附帯事項等に対する履行状況等	19
7. その他全般的事項	21

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 文京学院

## (2) 大学名

文京学院大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒113-8668  
東京都文京区向丘1-19-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(シマダ マサカズ) 島田昌和 (平成27年4月)		
学長	(サクライ タカシ) 櫻井 隆 (平成31年4月)		
研究科委員長	(ヨコタ(オカムラ)モトミ) 横田(岡村)素美 (令和3年4月)		
専攻主任	(イガラシ アイコ) 五十嵐 愛子 (令和3年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)  
令和4年度に報告する内容 → (4)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学研究科 看護学専攻 修士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	2年	10人	なし 年次 人	20人	新規入学者を募集	【基礎となる学部】 保健医療技術学部 看護学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	-	-	-	-	-	-	10	-	10	-	-	-	0.4倍	- 倍	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	4	(-)	4	(-)	(-)	(-)			
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	4	(-)	4	(-)	(-)	(-)			
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	4	(-)	4	(-)	(-)	(-)			
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	4	(-)	4	(-)	(-)	(-)			
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	0.4	-	0.4	-	-	-			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください）。
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	平成30年度	令和元年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	令和3年度	令和3年度	令和4年度	令和4年度		
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	4 [ - ] ( - )	0 [ - ] ( - )	4 [ - ] ( - )	0 [ - ] ( - )	
2年次			- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	0 [ - ] ( - )	0 [ - ] ( - )	4 [ - ] ( - )	0 [ - ] ( - )	
3年次					- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	
4年次							- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	
計	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	4 [ - ] ( - )	8 [ - ] ( - )	8 [ - ] ( - )	0 [ - ] ( - )	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	人	人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	- 人	- 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	4 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	8 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
合計		0 人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<看護学研究科 看護学専攻>

(1) -① 授業科目表

### 【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護研究方法論Ⅰ	1前	2			1						
	看護研究方法論Ⅱ	1後	2			1						
	看護実践教育論	1後	2			3	1					
	看護倫理	1前	2			1						
	ヘルスプロモーションと健康教育	1前		2		1						
	家族看護論	1後		2		1						
	看護システム論	1前		2		1						
	看護理論	1前	2			1						
	フィジカルアセスメント	1後		2		1	1					
	病態生理学	1後		2								兼1
	看護管理	2前		1		1						
コンサルテーション論	2前		2		1	1						
小計(12科目)	—	10	13	0	6	2	0	0	0		兼1	
専門教育科目	生活支援看護学総論	1前	1			1						
	療養生活支援看護学特論	1前		2		2	1					
	療養生活支援看護学演習Ⅰ	1後		1		2	3	1				兼1
	療養生活支援看護学演習Ⅱ	2前		1		3	3	1				
	療養生活支援看護学実習	1後		2		3	4	1	1			
	健康生活支援看護学特論	1前		2		2						
	健康生活支援看護学演習Ⅰ	1後		1		2	1					
	健康生活支援看護学演習Ⅱ	2前		1		2	1					
	健康生活支援看護学実習	1後		2		2	1					
小計(9科目)	—	1	12	0	5	5	1	1	0		兼1	
特別研究科目	特別研究	2	8			8	5	1				
小計(1科目)	—	8	0	0	8	5	1	0	0			
合計(22科目)	—	19	25	0	8	5	1	1	0		兼2	

卒業要件及び履修方法

修了要件は、本研究科に2年以上在学し、30単位以上を履修し、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。  
履修方法は、共通科目において必修科目10単位、選択必修科目2単位、選択科目3単位以上、専門教育科目において必修科目1単位、療養生活領域あるいは健康生活領域いずれか主たる領域の選択必修科目6単位、特別研究8単位を含めて30単位以上修得する。

### 【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護研究方法論Ⅰ	1前	2			1						
	看護研究方法論Ⅱ	1後	2			1						
	看護実践教育論	1後	2			3	1					
	看護倫理	1前	2			1						
	ヘルスプロモーションと健康教育	1前		2		1						
	家族看護論	1後		2		1						
	看護システム論	1前		2		1						
	看護理論	1前	2			1						
	フィジカルアセスメント	1後		2		1	1					
	病態生理学	1後		2								兼1
	看護管理	2前		1		1						
コンサルテーション論	2前		2		1	1						
小計(12科目)	—	10	13	0	6	2	0	0	0		兼1	
専門教育科目	生活支援看護学総論	1前	1			1						
	療養生活支援看護学特論	1前		2		2	1					
	療養生活支援看護学演習Ⅰ	1後		1		2	3	1				兼1
	療養生活支援看護学演習Ⅱ	2前		1		3	3	1				
	療養生活支援看護学実習	1後		2		3	4	1	1			
	健康生活支援看護学特論	1前		2		2						
	健康生活支援看護学演習Ⅰ	1後		1		2	1					
	健康生活支援看護学演習Ⅱ	2前		1		2	1					
	健康生活支援看護学実習	1後		2		2	1					
小計(9科目)	—	1	12	0	5	5	1	1	0		兼1	
特別研究科目	特別研究	2	8			8	5	1				
小計(1科目)	—	8	0	0	8	5	1	0	0			
合計(22科目)	—	19	25	0	8	5	1	1	0		兼2	

卒業要件及び履修方法

修了要件は、本研究科に2年以上在学し、30単位以上を履修し、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。  
履修方法は、共通科目において必修科目10単位、選択必修科目2単位、選択科目3単位以上、専門教育科目において必修科目1単位、療養生活領域あるいは健康生活領域いずれか主たる領域の選択必修科目6単位、特別研究8単位を含めて30単位以上修得する。

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護研究方法論Ⅰ	1前	2			1						
	看護研究方法論Ⅱ	1後	2			1						
	看護実践教育論	1後	2			3	1					
	看護倫理	1前	2			1						
	ヘルスプロモーションと健康教育	1前		2		1						
	家族看護論	1後		2		1						
	看護システム論	1前		2		1						
	看護理論	1前	2			1						
	フィジカルアセスメント	1後		2		1	1					
	病態生理学	1後		2								兼1
	看護管理	2前		1		1						
	コンサルテーション論	2前		2		1	1					
小計(12科目)	—	10	13	0	6	2	0	0	0		兼1	
専門教育科目	生活支援看護学総論	1前	1									
	療養生活支援看護学特論	1前		2		2	1					
	療養生活支援看護学演習Ⅰ	1後		1		2	3	1				兼1
	療養生活支援看護学演習Ⅱ	2前		1		3	3	1				
	療養生活支援看護学実習	1後		2		3	4	1	1			
	健康生活支援看護学特論	1前		2		2						
	健康生活支援看護学演習Ⅰ	1後		1		2	1					
	健康生活支援看護学演習Ⅱ	2前		1		2	1					
	健康生活支援看護学実習	1後		2		2	1					
小計(9科目)	—	1	12	0	5	5	1	1	0		兼1	
特別研究科目	特別研究	2	8			8	5	1				
	小計(1科目)	—	8	0	0	8	5	1	0	0		
合計(22科目)		—	19	25	0	8	5	1	1	0		兼2
卒業要件及び履修方法												
<p>修了要件は、本研究科に2年以上在学し、30単位以上を履修し、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。</p> <p>履修方法は、共通科目において必修科目10単位、選択必修科目2単位、選択科目3単位以上、専門教育科目において必修科目1単位、療養生活領域あるいは健康生活領域いずれか主たる領域の選択必修科目6単位、特別研究8単位を含めて30単位以上修得する。</p>												



(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【令和3年度】**

特になし。

**【令和4年度】**

特になし。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
7 科目	15 科目	0 科目	22 科目	0 科目 [ - ]	0 科目 [ - ]	0 科目 [ - ]	0 科目 [ - ]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{22} = \boxed{\phantom{00}}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	59,143.82 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	59,143.82 m <sup>2</sup>			
	運動場用地	35,169.84 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	35,169.84 m <sup>2</sup>			
	小 計	94,313.66 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	94,313.66 m <sup>2</sup>			
	そ の 他	11,383.32 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	11,383.32 m <sup>2</sup>			
	合 計	105,696.98 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	105,696.98 m <sup>2</sup>			
(2) 校舎	専 用	63,480.02 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	63,480.02 m <sup>2</sup>			
	(63,480.02 m <sup>2</sup> )	(0.00 m <sup>2</sup> )	(0.00 m <sup>2</sup> )	(0.00 m <sup>2</sup> )	(63,480.02 m <sup>2</sup> )			
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	1室	3室	4室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	看護学研究科看護学専攻			13 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	視聴覚資料	機械・器具	標 本		
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種				電子ジャーナル〔うち外国書〕	点
	看護学研究科	608 [181] (562 [174])	0 [0] (0 [0])	0 [0] (0 [0])	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計	608 [181] (562 [174])	0 [0] (0 [0])	0 [0] (0 [0])	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
(6) 図書館	面 積	閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	4,054.92m <sup>2</sup>	574		479,000				
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
	3,139.25m <sup>2</sup>	テニスコート3面		フットサルコート1面				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	500千円	500千円	図書購入費	4,000千円	260千円	260千円
	共同研究費等	1,800千円	1,800千円	設備購入費	14,000千円	3,300千円	3,300千円	
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,118千円	823千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	文京学院大学					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率 1.3倍以上の学科数	0	備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	
経営学部						1.00	0.98	-		
経営コミュニケーション学科	4	260	-	1040	学士(経営学)	1.00	0.98	-	平成3年度	東京都文京区向 丘1丁目19番1号
人間学部						0.95	0.77	-		
コミュニケーション社会学科	4	60	-	240	学士(人間学)	1.18	0.87	-	平成15年度	埼玉県ふじみ野 市亀久保1196番 地
児童発達学科	4	130	-	520	学士(教育学)	0.78	0.58	-	平成15年度	
人間福祉学科	4	110	-	440	学士(社会福祉学)	0.87	0.65	-	平成15年度	コミュニケーション社会学 科と人間福祉学 科福祉メンター コースのみ
心理学科	4	100	-	400	学士(心理学)	1.14	1.11	-	平成15年度	(1~2年次) 埼玉県ふじみ野 市亀久保1196番 地 (3~4年次) 東京都文京区向 丘1丁目19番1号
外国語学部						0.91	0.65	-		
英語コミュニケーション学科	4	260	-	1040	学士(コミュニケーション)	0.91	0.65	-	平成13年度	東京都文京区向 丘1丁目19番1号
保健医療技術学部						0.97	0.92	-		
理学療法学科	4	80	-	320	学士(理学療法学)	1.00	0.93	-	平成18年度	埼玉県ふじみ野 市亀久保1196番 地
作業療法学科	4	40	-	160	学士(作業療法学)	0.83	0.80	-	平成18年度	
臨床検査学科	4	80	-	320	学士(臨床検査学)	0.94	0.80	-	平成18年度	臨床検査学科と 看護学科のみ (1年次)
看護学科	4	100	-	400	学士(看護学)	1.03	1.06	-	平成26年度	埼玉県ふじみ野 市 亀久保1196番地 (2~4年次) 東京都文京区向 丘1丁目19番1号
大学院										
経営学研究科						0.56	0.50	-		
経営学専攻	2	30	-	60	修士(経営学)	0.56	0.50	-	平成9年度	東京都文京区向 丘1丁目19番1号
人間学研究科						0.46	0.50	-		
人間学専攻	2	10	-	20	修士(人間学)	0.45	0.60	-	平成11年度	埼玉県ふじみ野 市亀久保1196番 地
心理学専攻	2	20	-	40	修士(心理学)	0.47	0.45	-	平成13年度	
外国語学研究科						0.50	0.70	-		
英語コミュニケーション専攻	2	10	-	20	修士 (英語コミュニケーション)	0.50	0.70	-	平成17年度	東京都文京区向 丘1丁目19番1号
保健医療科学研究科						1.00	0.80	-		
保健医療科学専攻	2	20	-	40	修士 (保健医療科学)	1.00	0.80	-	平成22年度	東京都文京区向 丘1丁目19番1号
看護学研究科						0.40	0.40	-		
看護学専攻	2	10	-	20	修士(看護学)	0.40	0.40	-	令和3年度	東京都文京区向 丘1丁目19番1号

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。  
 ・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

## 5 教員組織の状況

<看護学研究科 看護学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和3年度】

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授 (研究科委員長)	横田(岡村) 素美 <令和3年4月> 博士(看護学)
		看護実践教育論 フィジカルアセスメント 生活支援看護学総論 療養生活支援看護学特論 療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	教授	五十嵐 愛子 <令和3年4月> 博士(保健福祉学)
		療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	教授	志自岐 康子 <令和3年4月> 看護学博士
		看護倫理 看護管理 特別研究
専任	教授	高橋 真理 <令和3年4月> 博士(医学)
		看護研究方法論Ⅱ ヘルスプロモーションと健康教育 家族看護論 特別研究
専任	教授	中山 洋子 <令和3年4月> Ph.D in Nursing (米国)
		看護研究方法論Ⅰ 看護システム論 看護理論 コンサルテーション論 特別研究
専任	教授	藤本 薫 <令和3年4月> 博士(看護学)
		看護実践教育論 健康生活支援看護学特論 健康生活支援看護学演習Ⅰ 健康生活支援看護学演習Ⅱ 健康生活支援看護学実習 特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授 (研究科委員長)	横田(岡村) 素美 <令和3年4月> 博士(看護学)
		看護実践教育論 フィジカルアセスメント 生活支援看護学総論 療養生活支援看護学特論 療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	教授	五十嵐 愛子 <令和3年4月> 博士(保健福祉学)
		療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	教授	志自岐 康子 <令和3年4月> 看護学博士
		看護倫理 看護管理 特別研究
専任	教授	高橋 真理 <令和3年4月> 博士(医学)
		看護研究方法論Ⅱ ヘルスプロモーションと健康教育 家族看護論 特別研究
専任	教授	中山 洋子 <令和3年4月> Ph.D in Nursing (米国)
		看護研究方法論Ⅰ 看護システム論 看護理論 コンサルテーション論 特別研究
専任	教授	藤本 薫 <令和3年4月> 博士(看護学)
		看護実践教育論 健康生活支援看護学特論 健康生活支援看護学演習Ⅰ 健康生活支援看護学演習Ⅱ 健康生活支援看護学実習 特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授 (研究科委員長)	横田(岡村) 素美 <令和3年4月> 博士(看護学)
		看護実践教育論 フィジカルアセスメント 生活支援看護学総論 療養生活支援看護学特論 療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	教授	五十嵐 愛子 <令和3年4月> 博士(保健福祉学)
		療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	教授	志自岐 康子 <令和3年4月> 看護学博士
		看護倫理 看護管理 特別研究
専任	教授	高橋 真理 <令和3年4月> 博士(医学)
		看護研究方法論Ⅱ ヘルスプロモーションと健康教育 家族看護論 特別研究
専任	教授	中山 洋子 <令和3年4月> Ph.D in Nursing (米国)
		看護研究方法論Ⅰ 看護システム論 看護理論 コンサルテーション論 特別研究
専任	教授	藤本 薫 <令和3年4月> 博士(看護学)
		看護実践教育論 健康生活支援看護学特論 健康生活支援看護学演習Ⅰ 健康生活支援看護学演習Ⅱ 健康生活支援看護学実習 特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	増田 元香 ＜令和3年4月＞ 博士(ヒューマン・ケア科学)
		療養生活支援看護学特論 療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	教授	米澤 純子 ＜令和3年4月＞ 博士(都市科学)
		看護実践教育論 健康生活支援看護学特論 健康生活支援看護学演習Ⅰ 健康生活支援看護学演習Ⅱ 健康生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	池口 佳子 ＜令和3年4月＞ 博士(看護学)
		看護実践教育論 療養生活支援看護学特論 療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	金久保 愛子 ＜令和3年4月＞ 博士(看護科学)
		療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	小檜山 敦子 ＜令和3年4月＞ 博士(看護学)
		健康生活支援看護学演習Ⅰ 健康生活支援看護学演習Ⅱ 健康生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	染谷 奈々子 ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		コンサルテーション論 フィジカルアセスメント 療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	土谷 朋子 ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	増田 元香 ＜令和3年4月＞ 博士(ヒューマン・ケア科学)
		療養生活支援看護学特論 療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	教授	米澤 純子 ＜令和3年4月＞ 博士(都市科学)
		看護実践教育論 健康生活支援看護学特論 健康生活支援看護学演習Ⅰ 健康生活支援看護学演習Ⅱ 健康生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	池口 佳子 ＜令和3年4月＞ 博士(看護学)
		看護実践教育論 療養生活支援看護学特論 療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	金久保 愛子 ＜令和3年4月＞ 博士(看護科学)
		療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	小檜山 敦子 ＜令和3年4月＞ 博士(看護学)
		健康生活支援看護学演習Ⅰ 健康生活支援看護学演習Ⅱ 健康生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	染谷 奈々子 ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		コンサルテーション論 フィジカルアセスメント 療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	土谷 朋子 ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	増田 元香 ＜令和3年4月＞ 博士(ヒューマン・ケア科学)
		療養生活支援看護学特論 療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	教授	米澤 純子 ＜令和3年4月＞ 博士(都市科学)
		看護実践教育論 健康生活支援看護学特論 健康生活支援看護学演習Ⅰ 健康生活支援看護学演習Ⅱ 健康生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	池口 佳子 ＜令和3年4月＞ 博士(看護学)
		看護実践教育論 療養生活支援看護学特論 療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	金久保 愛子 ＜令和3年4月＞ 博士(看護科学)
		療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	小檜山 敦子 ＜令和3年4月＞ 博士(看護学)
		健康生活支援看護学演習Ⅰ 健康生活支援看護学演習Ⅱ 健康生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	染谷 奈々子 ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		コンサルテーション論 フィジカルアセスメント 療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	准教授	土谷 朋子 ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究



専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	渋谷 寛美 ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	助教	宗澤 紀子 ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		療養生活支援看護学実習
兼担	教授	川良 徳弘 ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
		病態生理学
兼任	講師	伊藤 由里子 ＜令和3年4月＞ 博士(看護学)
		療養生活支援看護学演習Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	渋谷 寛美 ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	助教	宗澤 紀子 ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		療養生活支援看護学実習
兼担	教授	川良 徳弘 ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
		病態生理学
兼任	講師	伊藤 由里子 ＜令和3年4月＞ 博士(看護学)
		療養生活支援看護学演習Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	渋谷 寛美 ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		療養生活支援看護学演習Ⅰ 療養生活支援看護学演習Ⅱ 療養生活支援看護学実習 特別研究
専任	助教	宗澤 紀子 ＜令和3年4月＞ 修士(看護学)
		療養生活支援看護学実習
兼担	教授	川良 徳弘 ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
		病態生理学
兼任	講師	伊藤 由里子 ＜令和3年4月＞ 博士(看護学)
		療養生活支援看護学演習Ⅰ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼担、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

**【令和3年度】**

該当なし

**【令和4年度】**

該当なし

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	4	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
8	5	1	1	15	0	8	5	1	1	15	0
(8)	(5)	(1)	(1)	(15)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
8	6	1				8	6	1			
(8)	(6)	(1)				(8)	(6)	(1)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
8	5	1	1	15	0	8	5	1	1	15	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
8	6	1				8	6	1			
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長 して採用する教員数
68	2	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{15}{15} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{15} = \boxed{13.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由							
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)					
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{15} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

□人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼任教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul>
---

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>培う能力を各医療機関や臨床現場のどのような場面で生かせるのか、またどのような立場を目指すことができるのかを入試説明会やガイダンスで学生に事前に明示すること。</p> <p style="text-align: center;">遵守事項</p>	<p>昨年度に引き続き、受験前の面接において、本研究科が目指す人材育成について説明する際に大学院修了後、臨床現場で発揮して欲しい役割や実践について説明した。特に受験を考えている方を対象としたオンライン相談の際にも、この点を十分に説明した。さらに入学後のガイダンスではもちろんのこと、専門教育科目の授業の中でも、看護専門職者の役割等に関するディスカッションを通して、本研究科で培う能力を以って臨床現場で発展できる実践について意識づけている。</p> <p style="text-align: center;">履行中</p>	<p>修了学年である2年次生の専門教育科目の授業において、事例等を用いたディスカッションを深めて、臨床現場において対象者への教育的なかわりをスタッフ間で検討し、看護の力を高めていくことを牽引する役割を意識づけていく。</p>
<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>1年後期の「健康生活支援看護学実習」及び「療養生活支援看護学実習」について、2年次の「特別研究」の指導教員及び副指導教員が中心となって実習指導を行うとあるが、両科目の関係を学生に対しガイダンスであらかじめ説明すること。また、「療養生活支援看護学実習」については、研究指導あるいは研究指導補助の判定がなされていない教員も担当することになっているが、指導教員及び福指導教員が中心となって実習指導を行う趣旨を踏まえ、科目担当者の配置を検討すること。</p> <p style="text-align: center;">遵守事項</p>	<p>昨年度同様、ガイダンス時に「健康生活支援看護学実習」および「療養生活支援看護学実習」に関しては、各院生が特論や演習Ⅰを通して研究テーマとして関心のある事象を絞り込む中で疑問に残っている内容や曖昧な点を臨床現場の中で確認するためにも必要であること、自身の教育的な看護実践力を振り返りながら高めていくことが目的であることを説明した。また特別研究指導補助以外の教員のかかわりは、あくまでも看護実践へのサポートであることを説明した。1年次の6月に決定した主指導教員が各院生の研究テーマに沿った実習計画作成ならびに実習成果から研究方法の精査の指導にあたった。</p> <p style="text-align: center;">履行中</p>	<p>本年度入学した院生に関しても、6月には主指導教員を決定し、研究テーマの絞り込みを図りながら個々の院生のテーマに沿った実習計画の作成と実習成果の研究への還元を指導していく。</p>

認可時  (令和2年)	本研究科の修士生への期待として、「他の看護スタッフの実践力向上に関しても指導的な役割を担えると考え。」としているため、養成する人材像やディプロマ・ポリシーにおいても、臨床現場において指導的な役割を担える旨明記することが望ましい。(助言事項)	改善事項	昨年度同様、ディプロマ・ポリシーへの加筆は完成年度を迎えた段階で実施する予定である。上記のように、受験前の面接において、本研究科が目指す人材育成について説明する際に大学院修了後、臨床現場で発揮して欲しい役割や実践について説明した。さらに入学後のガイダンスでもちろんのこと、専門教育科目の授業の中でも、看護専門職者の役割等に関するディスカッションを通して、本研究科で培う能力を以って臨床現場で発展できる実践について意識づけている。中でも教育的看護実践に関しては、指導的な役割を担うことの意義を伝えている。	履行中	完成年度に向けてディプロマポリシーの検討を始めている。また健康生活ならびに療養生活支援という観点から人々の受診支援を担う人材育成という視点を盛り込んでいく予定である。
認可時  (令和2年)	入試選抜の評価基準について、評価項目の各指標の割合を明示するなど、客観性を確保するよう努めることが望ましい。(助言事項)	改善事項	昨年度、小論文ならびに英語、口述試験・面接に関して、評価項目をアドミッション・ポリシーと照合させて設定した。さらに各評価項目の評価基準も明確にし、指標割合も定めた。入試説明会や事前相談会において、アドミッション・ポリシーと合わせて、どのような視点で評価するかについては説明していく。	履行中	オンライン相談会や入試説明会の場を活用して評価に関する説明を実施する。
設置計画履行状況調査時  (令和3年)	文京学院大学の既設学科等(人間学部コミュニケーション社会学科)の入学定員超過の改善に努めること。	指摘事項(改善)	人間学部コミュニケーション社会学科のR4年度の定員超過率は0.87で、平均定員超過率は1.18となり改善した。	履行中	今後も全学部、研究科の入学定員超過率に留意する。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<看護学研究科 看護学専攻>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
変更なし	変更なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

研究科の完成年度までは、研究科に関わる全教員の大学院教育についての理解・認識の不一致を防ぐために、FD・SDに関しては、研究科委員会で取り扱うこととした。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

研究科委員会は、4月から原則、月1回開催している。

c 委員会の審議事項等

研究科委員会で、看護学生を対象とした研究倫理に関する研修会の必要性を審議した。

② 実施状況

a 実施内容

2022年3月に今後の院生の研究テーマも考慮して、看護学生を対象とした研究の倫理的配慮や課題に関するFDを実施した。

b 実施方法

看護倫理を担当している特任教授が海外の文献も含め看護学生を対象とした研究の倫理的配慮や課題について文献検討した内容をプレゼンテーションし、さらに看護学生を対象とした研究で倫理的に苦慮した事例を紹介し、これらの内容をもとにグループディスカッションをして、その後全体で課題を共有し、看護学生を対象とした研究の倫理的配慮への理解を深めた。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

本年度も3月に実施予定である。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

特別研究の指導に反映させていく。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期・後期の授業終了後に実施予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

web上で学生・教員へ公開予定。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）



(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

**該当なし**

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開学以来、研究科に関わる全教員で設置趣旨の認識を擦り合わせてきた。特に共通科目に関しては、科目担当者が院生の教育的看護実践能力の基盤となる知識と能力の教授について提示し、全教員と話し合う機会を設定した。院生にも各授業において、獲得すべき実践力への意識づけを行っており、学修内容との繋がりを院生も理解し、積極的に取り組んでいる。概ね設置趣旨に沿った教育が展開できていると考える。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

完成年度後の令和5年5月1日に公表予定。

###### b 公表方法

自己点検・評価報告書を作成し、希望があった学生には各1冊を配布する。大学のホームページ上で公開予定。（令和5年8月末予定）

##### ③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

本学では昨年度、学部・大学院も含め大学認証評価を受けた。そのため、次回令和9年度に向けて、完成年度を終えた段階で、教育課程をはじめ本研究科の組織体制等の見直しを開始する。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・ 無 ]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内  公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。